

## イベントレポート 『2010 GT耐久東海シリーズ 第3戦』

開催日 2010年7月11日(日)

14:00 決勝スタート 17:00 チェッカー

天候 雨

最高気温 25.2 (16時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 17台

2010年7月11日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2010K耐久/GT耐久東海シリーズの第3戦が行われた。

梅雨ということで、この日の降水確率は午後が70%。午前中は小雨が時折振る程度であったが、GT耐久が始まる30分ほど前から強い雨が降り始め、ヘビウエット状態での予選となった。

雨天のために暑さの心配はないものの、滑りやすい路面の中でいかにコースアウトせず完走できるかが上位を獲得できるポイントとなりそうである。



### 「1+2」クラス(1500cc以下のNA車と、1200cc以下のターボ車)

第3戦から『1000cc以下のNA車』に属する1クラスのマシンはハンディーが「-3分」となる。今までは「-2分」であったため、最終周回数に換算すると3周ほど多く走れることになり、1クラスの車両でも上位を狙えるチャンスが高まった。

今回は1クラスに相当する1000ccのマーチが1台参戦。コースコンディションはウエットと軽量ボディーが有利に働く状況の中で、ハンディーを活かして上位に食い込めるのか。



### 予選

予選1番手を獲得したのは、No.3「メタルクラフトRTスターレット」でタイムは1'09.043をマーク。前回はコースアウトが響きよもやの6位であったが、今回はトップを狙うには絶好のポジションを獲得。

2番手タイムを出したのは、No.110「DXLアライメント浜松シティー」で1'09.955をマーク。前回優勝したこのチームは、20Kgのハンディーウエイトを搭載しての走行となったが、それを感じさせないタイムを叩き出す。

3位にはNo.31「東海YEG自動車倶楽部シティ」が1'11.681で入り、

4位には1'13.775のNo.56「COCPIT高橋N+EP91」が入る。

注目の1クラス該当車両No.86「マーチ&スイフト屋のマーチ」は、予選でタイムを残せず最後尾からのスタートとなってしまった。



### 序盤

1時間経過時点での1位は、予選トップからスタートのNo.3「メタルクラフトRTスターレット」。雨の中快調なペースを保ち28周をラップする。

2位と3位にはトップから1周の差で、No.110「DXLアライメント浜松シティー」と、No.31「東海YEG自動車倶楽部シティ」が位置する。

4位はNo.56「COCPIT高橋N+EP91」で26Lapを周回。



5位のNo.86「マーチ&スィフト屋のマーチ」は40分時点でのコースアウトが大きく響き、20Lapと上位から離されてしまう。そんな中、1時間経過のタイミングでNo.110「DXLアライメント浜松シティー」が1コーナーでまさかのコースアウト。上位争いから脱落してしまう。



### 終盤

スタート後2時間が迫ろうとした頃、それまで3位を走行していたNo.56「COCPIT高橋N+ EP91」が2コーナーでコースアウト。上位争いから脱落してしまう。

こうなると上位争いはコースアウトしていない、No.31「東海YEG自動車倶楽部シティー」と、No.3「メタルクラフトRTスターレット」の2台に絞られる。2時間経過時点での周回数は、それぞれ54周と53周。3番手にNo.110「DXLアライメント浜松シティー」が付けるものの、コースアウトが効いて周回数は50Lap。

4位のNo.56「COCPIT高橋N+ EP91」は46周、5位のNo.86「マーチ&スィフト屋のマーチ」は43周と、やはりコースアウトのタイムロスが大きいのしかかる。



### 最終結果

ラスト30分には3位を走行していたNo.110「DXLアライメント浜松シティー」が2回目のコースアウト。順位争いからは完全に脱落してしまう。

そしてラスト15分には2番手を走行していたNo.31「東海YEG自動車倶楽部シティー」がオーバーヒートでマシンストップし、そのままレースを終えてしまう。

この結果、一度もコースオフすることなく3時間を走りきったNo.3「メタルクラフトRTスターレット」が、83Lapで開幕戦以来となる優勝を飾った。

2位から4位はコースアウトしたチーム同士での争い。2位No.56「COCPIT高橋N+ EP91」が74Lap、3位No.86「マーチ&スィフト屋のマーチ」が72Lap、4位No.110「DXLアライメント浜松シティー」が71Lapという結果になった。またラスト15分でマシンストップしたNo.31「東海YEG自動車倶楽部シティー」はチェッカーを受けることが出来なかったが、規定周回数(完走扱いとなる周回数)をクリアしたため、5位の順位が認定された。

このクラスは5台中3台がコースアウトするといった、難しい雨のレースを象徴するような結果となった。

今回の結果を受けて、シリーズポイント争いではNo.3「メタルクラフトRTスターレット」が46点で再びトップに浮上。これを1点差でNo.110「DXLアライメント浜松シティー」が追いかける。

また今回2位となったNo.56「COCPIT高橋N+ EP91」も、39点の3位でトップを視野に捉える。

第4戦は4時間の長丁場。シリーズポイント争いで一歩抜け出ることが出来るのはどのチームになるのか。



3 C クラス (1501 ~ 2000cc の NA 車と、1201cc ~ 1800cc のターボ車)

毎回GT耐久最多エントリーとなるこのクラス。今回も 10 台がエントリーし激戦区となった。

また今シーズン初めて AE86 がエントリーし、車種のバラエティーがさらに増えた。

#### 予選

今回の予選はかなり強い雨の中での走行となり、レイン用のセッティングに苦しむチームも見受けられる。

そんな中で 1 位を獲得したのは、No.106「D & M プジョー 106」。

総合でも 1 位となる 1'07.485 をマークする。

2 位は No.80「ハガクリニック シンワ サクソ」でタイムは 1'08.468。こちらも総合 2 位に付ける見事なタイムで、フロントロー 2 台を輸入車が占める。

3 位は No.1「SPRAY シビック (代車)」でタイムは 1'09.505。開幕からここまで表彰台に乗ったことは無いが、ウエットでこのポジションを獲得できたことは、セッティングが進んできた証しか。

以下 4 位に No.111「Stec AE - 1 ファジートレノ」、5 位に No.830「CLN シビック」、6 位に No.75「DXL シーワン N チーム EP82」と続く。

#### 序盤

序盤は予選上位 2 台の No.106「D & M プジョー 106」と、No.80「ハガクリニック シンワ サクソ」が、予選の好調さをそのままにラップを重ねる。

1 時間経過時点では、1 回目のピットインを先延ばしした No.20「久興自動車マイマイ MR2」が 1 位に立つものの、これに続く 2 位に No.106「D & M プジョー 106」、3 位に No.80「ハガクリニック シンワ サクソ」が共に 29Lap で付ける。

これに続く 4 位から 8 位までの 5 チームは共に 28 周でピタリと追走。4 位 No.830「CLN シビック」、5 位 No.1「SPRAY シビック (代車)」、6 位 No.111「Stec AE - 1 ファジートレノ」、7 位 No.33「チーム海老天ミラージュ 國森 WP」、8 位 No.75「DXL シーワン N チーム EP82」と続き、まだまだトップを狙える位置に多くのマシンがひしめき合う。

#### 終盤

序盤、上位 8 台が僅差で争いを続けていたが、ウエット路面に足をすくわれてコースアウトする車両が出始める。

65 分時点で No.830「CLN シビック」、80 分時点で No.20「久興自動車マイマイ MR2」がそれぞれコースアウトし、上位争いからは脱落することに。

2 時間経過時点では、前回優勝の No.75「DXL シーワン N チーム EP82」がトップに浮上。しかし同一ラップの 55 周で No.106「D & M プジョー 106」と No.80「ハガクリニック シンワ サクソ」がピタリと追走する。

4 番手の No.111「Stec AE - 1 ファジートレノ」は 54Lap、5 位と 6 位の No.1「SPRAY シビック (代車)」と、No.33「チーム海老天ミラージュ 國森 WP」は共に 53Lap と、このあたりまでが表彰台を狙え



る範囲か。初参加の No.54「オンボロハチロクトレノ」も 52Lap に付け、トロフィーを狙える位置に付ける。

### 最終結果

チェッカーまであと 15 分というところで赤旗中断となり、各車の差がぐっと詰まることになる。

これにより、この時点での 1 位 No.111、2 位 No.80、3 位 No.106 の 3 台が連なった状態となり、ラスト 4 分となったところでレースが再開される。

残り 4 分はスプリントレース並みの緊張感。この中、真っ先にチェッカーを受けたのは No.111「Stec AE - 1ファジートレノ」であった。難しいコンディションの中で 85 周を走りきり、嬉しい初優勝となった。

トップから 0.6 秒差で惜しくも 2 位となったのは、No.80「ハガクリニック シンワ サクソ」。開幕戦、第 2 戦と不運続きであったが、それを一気に晴らすべく表彰台を獲得した。

3 位は No.106「D & M ブジョー 106」。ポールからスタートし、2 位の No.80「ハガクリニック シンワ サクソ」と共に終始レースをリードしてきただけに、やや悔しい表彰台か。

4 位の No.75「DXLシーワンNチームEP82」も 3 位からわずか 4 秒遅れ。ウエイトハンディーをものともせず、後半に追い上げを見せたが、表彰台まであと一步届かなかった。

5 位に入ったのは No.1「SPRAYシビック(代車)」で 83 周を Lap。スタートでは好位置に付けたものの、後半やや順位を落としてしまった。

6 位は 82 周を走りきった No.33「チーム海老天ミラージュ國森WP」。3 戦連続でトロフィーGETと安定した速さが光った。

これで開幕から勝者が毎回変わるという激戦ぶり。シリーズポイント争いも混沌としてくる中、次回の 4 時間耐久で確実にポイントを伸ばせるのはどのチームなのか。



30クラス(1501～2000ccのNA車と、1201cc～1800ccのターボ車)

前回は5台のエントリーがあったこのクラス。今回は都合の付かないチームが重なりエントリーは2台。ここまで2連勝のNo.83「URG WM CLNシビック」と、第2戦からニューマシンを投入してきたNo.19「YADOKARI シビック」の一騎打ちとなった。

#### 予選

オープンクラスはゴムブッシュのピロボール化などが許されており、よりシビアにマシンに作り上げることが可能だが、ウエット路面になると、このシビアさをコントロールするのが難しいケースもある。ヘビーウエットの路面の中で、どこまでマシンを使いこなせるのか。

予選1番手はNo.83「URG WM CLNシビック」でタイムは1'09.456。総合では4位となるタイムであったが、ここまで2戦とも予選総合の上位は30クラスが独占してきたことを考えると、やはりウエット路面においてはオープンクラスのマシンコントロールは難しいか。

2番手はNo.19「YADOKARI シビック」で、タイムは1'10.504をマーク。トップの1秒落ちと、今回こそはという位置に付ける。

#### 序盤

スタート直後、予選総合上位の30クラスのマシンとデッドヒートを繰り広げていたNo.83「URG WM CLNシビック」であったが、わずか15分ほどで1回目のピットイン。フロントガラスの曇りに見舞われ、なかなか本来の走りが難しい状態に。

1時間経過時点での1位はNo.19「YADOKARI シビック」で28周をラップ。2位のNo.83「URG WM CLNシビック」は前述のトラブルが大きく響き、周回数は24周にとどまる。

#### 終盤

2時間が経過してもなお、No.19「YADOKARI シビック」がトップにつける。53Lapを周回して総合でも6番手のポジション。

2位のNo.83「URG WM CLNシビック」は49周と序盤の差を詰めることができない。

#### 最終結果

トップでゴールしたのはNo.19「YADOKARI シビック」。84周を走り切り、総合でもトップと1周差の5位でフィニッシュした。

2位は82LapのNo.83「URG WM CLNシビック」。雨のレースで予想外のトラブルに見舞われ、開幕3連勝はならなかった。

第4戦は4時間の長丁場となるが暑さとも戦わなくてはならない。この暑さをも制して上位を獲得できるのはどのチームか。

